

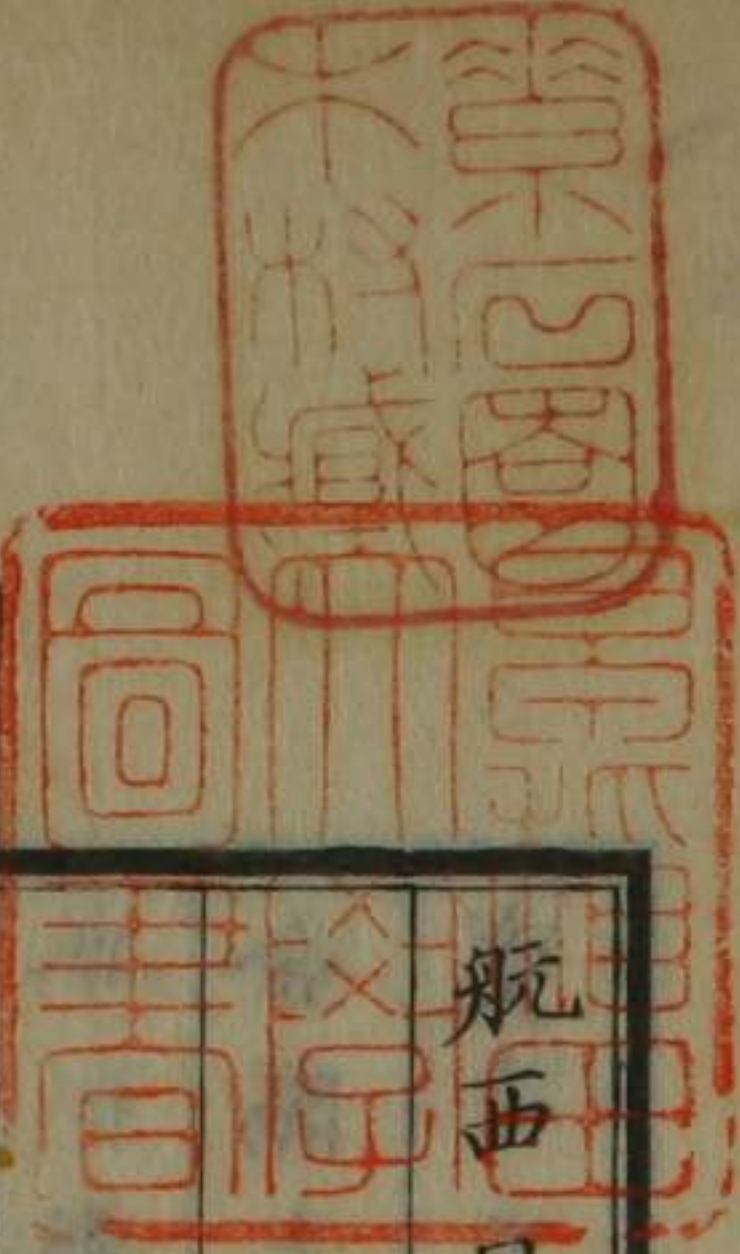


航西日記
卷之一

ル 2
3086
24



門 凡 2
號 3086
卷 2



蘇士

航西 日記卷之二

青洲漢夫
靄山樵者
同錄

慶應三丁卯年二月廿一日 西洋千八百六十七年三月廿六日 晴。漸

く海炭（り）子入り。午時蘇士（ス）小抵（ス）此（此）地（地）埃（埃）及（及）領（領）常（常）程（程）。

日土地沙磧（日）ふて。草木なく。人家樹木を栽（栽）る（る）子他

所より土を運（運）ひて。培養（養）え。水至（至）て惡（惡）く土民黒色。

頭（頭）子白布を巻（巻）き。佛國（佛）アルベリ（ベ）隊（隊）の如（如）き衣服

を着（着）る（る）。士官皆（皆）都兒格（都）の赤帽子（赤）を冠（冠）ま（ま）り。此地

西紅海の尾（尾）子（子）在（在）る一湾（一）よりして。近來地中海の通

航西日記 卷之二

早稲田大學圖書印
第25.8.16
星 森

路開けしより新らしき小設し港なれハ人家もい
多々扶疎フソふして惣て諸港の如くならず和と。而紅
海の行誥りよて。歐人喜望峯を回らまして。東洋
小達を便路なれハ。此炭を經さるを得る故に貨
物運輸。旅客船繼の要港なれハ。往々土民繁殖を
へき象あり○是より亞歷散アレキサンダー大少ての陸地。西紅
海と地中海との間を中斷し。亞弗利加地域よて。
北ハ都兒格小接し。港口遠淺まして船く一里半
余隔りて所泊せり。蓋沙漠の吐流故。砂色水色を
變して見ゆ。水尾屈曲して。船路をなす。沙泥船脚

を控し。所泊不便なれハ。蒸氣器械もて瀨浚最
中なり。暫時ありて小瀛船もて上陸せしむ。此間
二里許波戸場より左手海岸小臨める。英國の客
舎小投し。午餐し。瀛車發軌の制限を俟つ。庭中
りて風鈴の相番よて。食よ就く。價ハ正面の此客
店よて拂ひ。食札を買て用ゆるを便とに此客
舎ハ。英人の出屬よて本港第一なり。庭上草木を
雜栽し待合を慰まらる爲に。樓上より海洋を望
めり。諸山歴々として頗る佳觀なり。但土地暑熱
強き故。占涼の設あり。門外数弓小して。瀛車會所
也。其最寄土人の家ハ皆燕巢の如く土よて作り。

顔杞傾倒して古風を存するの事。此地瀛車を建
 築せしめ、英國通商會社の目論見小て、東洋貿易
 簡便自在を得ん為め。本地政府小達し。年限を定
 め其費用償戻しの上へ。地元小屬せしめんとの
 約束のよし。今全く埃及の所有とハせられりと
 ○西紅海と地中海とハ亞刺比亞と亞弗利加洲
 の地先交接する處よりて。僅し濤路を隔つ。凡百
 五六十里の陸路あり故に西洋の軍艦商船亦都
 て東洋より來船するハ。喜望峯の迂路を取りざる
 を得也。其經費大よりて運漕尤も不便なりとて。

千八百六十五年比より佛國會社より蘇士より
 地中海までの掘割を企て。志りも廣大なる土木
 を起し。此節經營最中のより。瀛車の左方遙に
 ントナと多く。張並へ土畚を運ぶ人夫等の行り
 ぶを見る。此功の竣成ハ三四年の目途小して成
 功の後ハ。東西洋直行の濤路を開き。西人東洋の
 聲息を快通し。商貨を運輸する。其便利昔日小幾
 陪するを知らるるといへり。総て西人の事を具に。
 獨一身一個の為よせむ。多々ハ全國全洲の鴻益
 を謀る。其規模の遠大小して。目途の宏壯なり。猶

感をべし。○夕七時比。調度食料。麵包。乾肉。果物。葡
 萄酒等を用意して。汽車に乗て。茂を。此車道の傍
 處。タントを設て。根とも。布幕をりて。雨露を
のく。土人用て。仮の家屋と。蓋。礮。確の地。民。水
草。小。より。て。移。轉。を。故。小。家。屋。も。運。搬。不。便。な。り。為
斯。上。世。より。如。荷。物。を。積。む。又。ハ。人。夫。も。住。居。せ。り。
め。作。為。せ。と。云。云。
 茂。鞆。會。所。より。數。十。步。障。て。沙。漠。な。り。草。木。生。せ。せ。
 茫。渺。さ。る。曠。野。風。の。吹。廻。り。小。より。所。々。高。低。あ。り。
 途。中。憩。休。所。五。三。軒。人。家。あ。り。て。汽。車。中。の。客。小。食
 料。を。驚。く。汽。車。道。の。側。小。一。の。往。還。あ。り。土。民。駱。駝
 小。荷。物。を。負。い。て。通。行。を。凡。沙。漠。を。涉。り。小。馬。牛

談祿

ハ。飲料。な。く。て。ハ。遠。き。小。行。り。さ。し。惟。駱。駝。ハ。渴。り
 堪。を。以。て。負。載。の。用。を。為。せ。と。云。上。古。乱。世。の。時
 盜。患。多。々。れ。ハ。人。民。數。百。人。相。集。り。駱。駝。數。百。小。荷
 物。を。負。し。て。鄰。國。小。販。賣。せ。し。とい。ふ。此。客。舎。よ。て
 汽。車。中。塵。沙。を。掩。ふ。く。久。用。ゆ。る。目。鏡。又。ハ。薄。紗。裁
 を。買。て。途。中。小。備。ふ。夜。十。二。時。談。祿。不。到。る。此地。蘇
陸。路。九。十。里。汽。車。不。能。日。多。國。の。都。府。不。し。て。土。域
て。九。八。時。間。不。達。を。エ。シ。ア。
 ハ。亞。弗。利。加。洲。な。れ。と。も。管。轄。ハ。總。て。都。兒。格。な。り
 亞。王。あ。り。て。亞。王。と。ハ。王。子。を。云。く。國。内。の。政。事。を。司
位。推。の。あ。る。者。を。云。く。
 其。風。俗。政。治。と。も。都。兒。格。と。同。し。土。地。東。陲。ハ。沙

漠小て草木水源なく。此地より南方漸く稼穡の
 地となる。地中海小臨める地。廣坦膏腴の嘉壤
 也。尼兒河といふあり。洲内月山といふ所より發
 源。一、沿流地中海小入る。河の兩岸ハ勿論。支流分
 派して。其沿岸都て塗泥の良田とせ。史小據て按
 る小。毎歲一次。潮水盛小至り。漲溢せる凡深三十
 尺廣二十里小いより。田土を培養せる農夫の灌
 溉糞畜をる小ひとく。其潮水の至る所を荒
 砂小属せるより。其潮の干満をもて年の豊歉を
 兆せといふ如斯く。荒蕪砂磧の地といへとも。自然

の養ひあり。天豈人を棄むや。此國古昔極盛の地
 小して。風俗文物。歐洲諸邦小先づつて開け。其名
 遠迹傳播して。歴代相傳の古國なり。教法の
 沿革あるより。盛衰汗隆相換り。建國後。七百余年
 小至り。日小衰弱小赴き亦振ハを。其後數百年麻
 哈麥マクニム回教を亞刺伯小唱へ興を小當り。遂小其ガ
 為め小國を棄も。都城の大庫小藏めくる儲書
 七十万冊ありしを。回部の者其書を取て焚捨
 りといふ。其文物の盛なる想像をへし。千八百年
 代。佛國王拿破崙攻取し。又都兒格の勢轄とな

り。其後久しく羅馬小属。總督を置け。尔後都
 児格小叛て。大小土地を開き近頃ハ。其附庸子属
 一。垂王の権ありといふ。此地小一巨寺あり。マル
 ブルふてなり蟻石なり建立し。凡十余丈許の伽藍なり。上
 ハ柱梁榱題とも彫鏤し。天井金箔五彩の焜耀目
 を眩くらま。下も蟻石を鋪て石甃として。登る者ふハ。
 沓を脱けしむ。四廊層閣環列せり。此禮拜堂ふハ。
 門戸砲卒警衛し。寺中ふり市街を臨めハ。一目瞭
 然。世界有名のヒラミード石を三角小積上る、凡
 高六十尺許の大墳也
 巨首あり。市中第一の奇觀といふ。此行ハ夜中な

垂歴散大

れハ遊覧を得ぬ。
 同廿二日西洋三月十七日晴。曉一時瀛車ふて。又散し。朝
 十時アキヤトルヤ垂歴散大蘇士より陸路百六十里。地
 密。土人多くハ。此地ハ。古國ふて殊ふ首府なれ着ぬ。
 小乘り通便此地ハ。古國ふて殊ふ首府なれ
 古器物考證小備ふへきもの多く。博覧會場小
 收てあり。皆太古の物ふて多くハ。土中より掘出
 したる。棺槨の類と見ゆ。人の脚の形ふて彩色
 ありて。堅木なる尸も腐
 朽セを依然と乾らび手足腹部とも幾
 重も卷るるなり。世よ所謂ミイラらん牧虎
 者の飾小用いし。金具の襟小挂るもの。又ハ指環
 曲珠。土製の人形蓋備な素焼の甕瓶の類。虫形を

周。印類ハ鳥篆カクシふて。雷斧ライフ雷槌ライチ。古劍コケンナト。種々奇品あり。此港ハ地中海の要港ふて。貿易も繁昌。土地も富饒ふて。戯場妓樓キキウなど何きも歐人半せり。土俗婦女ハ黒衣首より包カクシ。顔ハ眼の間ふ束木を立て掩カクシひ往来也。貴族ハ常ふ家居深窓ふ在て人ふ面カクシを恥カクシとカクシ。只一夫一婦の外妾を畜ふ多きハ數十人ふ過くとカクシいへり

西洋ハ。東洋諸邦と異なり。帝王より庶人カクシに至る迄。一夫人のカクシよカクシて。妾媵カクシふカクシ。即是閨門カクシより推して天下ふ及ほカクシ以理カクシならむ。然る小此國妾

嬖多カクシきを榮カクシとカクシる風習カクシふて。當時都児格帝カクシハ四百八十人余の妾あり。といふ。殊小男子却て妬情カクシ深カクシく。若一妾私小他の男ふ面カクシをカクシあれい。直カクシち小これを害カクシとカクシいふ。此地歐洲の最寄小在カクシといへとも。其陋風を改めさるカクシい。因襲カクシの久

佛國の留士カクシセ子カクシラール来りて。安着を賀カクシ。其官衙カクシよ一泊を請ふ。同廿三日カクシ西洋三月廿八日佛國の留士館より直カクシ馬車よカクシて郵船小至る時カクシセ子カクシラール兵隊を出カクシて

警衛一。小艇もて本船ヲて送り。度海郵船といふ少

同廿四日 西洋三月廿九日 晴。無事

同廿五日 西洋三月三十日 晴。無事

同廿六日 西洋三月三十一日 晴。風強く波暴一。暮六時、伊太

里亜領地。西治里島墨西拿港小着きぬ港。山を負

ひ海ふ臨み。人家海岸ふ連り。結構高く聳て。頗る

修整せり。砲名ハ突出せる平嶼の地先ふ在り。所

泊の船舶ハ。数多しといへとも貿易盛ふして。

土地の富饒なる体見ゆる。始て歐羅巴洲頻海ふ

墨西拿

入る。珊瑚精工の業をもて。土人繁富なりと云。船

小来て数種を商ふ

同廿七日 西洋四月一日 晴。曉二時、墨西拿を發せ。逆風小

て。船の動揺甚し。

同廿八日 西洋四月二日 晴。風強く船動揺昨のより。朝九

時、撒丁歌ル西克二島の間を過く。此二島ハ。往昔

伊太里亚小属せしが。百年己来佛國の属となふ

といふ。サルジニ一を其側羣島星列して。各跪状

あり。海峽。蜿蜒曲折して。恰も圍池を渉る如く。山

水天然の妙具れり。島中一介の白壁矮屋あり。乃

撒丁歌ル西克

是元伊太里亜國の陸軍總督ガルバルシ退隱の居なりといふ

此カルバルシ一六七年前、彈丸黒子の地より、

崛起し教法の真なるさを論し。廢佛の説を

主張し奮然兵を興し。威を泰西小輝し。伊太里

亜全地。頓整小席卷せんことを勢ありて。其雄

圖四鄰一時小震懼するに至れり。功名いまこ

墜ちさるる。蕭然退休して素楡の晩節を高く

し。悠々余齡を樂しむ。其英風猶欽尚する小堪

より

コルシカを諸山嶽として雲表小聳へ。名小お

ふ佛國初代の那破烈翁の出生の地なり。當時勃

興する。龍虎飛甯の兵威。向ふ所。山を回し。海を倒

し。盛名。八荒小震ひ。功業千載小煥たるを追想し。

山水の鍾秀靈英よく。人傑を生ずの信なる感嘆

せり。風愈暴く巨船を掀け。英雄の餘氣猶いまこ

消せさるるを覺ふ

同廿九日 西洋四日 晴。曉より風西北小轉し。朝九時

半頃。佛國馬塞里港小抵る。佛國の先小電線を以

て着船を本府小通達す。我船の岸小いこ

馬塞里

るやいなや砲臺より祝砲を報し。程なく本港の
 の總鎮台バツテラフて出迎ひ上陸して馬車
 小乗らしめ騎兵一小隊前後を護しガランド小
 テルドマルセエといふ郷導し。鎮台并海陸
 軍總督市尹等各礼服よて代々來訪して安着
 を賀し。午後三時頃フロリラルトジュリイ先
 導し。鎮台及び陸軍總督を訊問し。佛帝の別業を
 一覽し市街を見る。暮六時歸宿を。夜八時鎮台の
 郷導ふて。劇場を見る。小陪を

同晦日 西洋四月四日 晴。朝海軍總督及出士ゼ子ラール

と訊問し。夕鎮台の招待ふりて。其官衙小到り。
 鎮台并附属の士官多く相聚り饗せり。小陪を。夜
 十一時歸宿を

三月朔日 西洋四月五日 晴。朝八時寫真場小到り。一行の
 合圖を写せしむ。其より花園に至り。鳥獸草木の
 珍奇なるを収羅し畜を看る

同二日 西洋四月六日 晴。朝七時。各馬車ふて本地より三
 十四里西の海岸ツロントといふ所小到り。軍艦
 并諸器械を貯ふ所を見る。此日朗霽。四望田野。麥
 秀て菜花開き。其余名のなれざる草木の花咲き

水底術

て。聊旅懐を慰せり。鎮台附属の官吏出迎ひ。兵卒半大隊奇警衛し。奏樂などあり。程なく汽船にて。軍艦小請し。大砲其餘蒸氣機關等を見了まひ。發砲調練をなす。又我輩も大砲試發せしめ。夫より他船三艘小移る。每船砲あり。午時上岸を。鎮台へ請し。午餐を供し。畢りて。製鉄所。鑄鑪。反射。炉。其外種々の器械を見る。猶銃砲貯所。又ハ人を海底へ沈没せしめ。暗礁。其外水底小在る物を具小見留る術を見る。

此術ハ綴窓なる護膜を縫くるを以て。四支

授切牌

六穴へ水の徹らぬ様子。首小ハ頭形を兜やうなるものを冠り。眼の辺りより破礫を張り。見るを自在にして。天窓よりユムの管を通し。水外へ出し。空氣を通せしめて。幾時をても氣息堪しむ。此日沈没せしハ。水底淺しといえども。九四五十とニウト程なり。空氣通きぬハ。幾時をても堪ゆるといふ。

夕五時半頃。鎮台に抵り。其より同所を發し。夜に入て馬塞里の客舎に歸る。

同三日。西洋四日晴。午前十一時。郷導ありて。三兵調

練と觀るふ陪せり。騎兵ハハ。歩卒一砲兵一座なり。此
 調練ハ先頃東捕寨ふて戦つり。時有功の者へ
 功牌と与ふる為の行軍式なりといへり。其褒賞
 の式ハ三兵と聯袂前行を進め旋回して四方
 ふ布列し。其中兵の網人廣衆の觀望を属せる地
 位ふ當りて。其褒賞せる人の功の大小より。順
 席と逐ふて立しめ。全軍の惣督及軍監いつをも
 馬より下り。高聲に賞詞と唱へ。何くの役も。此
 度何くの功も。あり
りて。功牌と与
 ふと云ふ條也。惣督手つうう功牌と其人の胸間
 子掛け互ふ黙礼して式畢る。

此式ハ其出陣の時戦功ありしと。軍監より委
 しく認め。確然と頭證あるを大将へ言立て。其
 より帝王ふ奏聞し。其允許を得て其ものへ達
 し。且其國子功勞ある事を國內諸人ふ見聞せ
 しめむ為。頭然と眼前ふ其功牌と与ふるを
 て。尤度く功あれば其都度く其数を懸る。故ふ
 國人老幼男女ふ至るまで。是を見て有功の人
 なるを知りてありめ責ふといへり。誠ふ士を
 賞する所明りし。して。功を励ますに公なり。故
 ふ士卒ふ至るまで軍ふ赴き身命を輕んし。立

功を重と先國の為ふ死をいとをさる所以是
を見て其素あるを知る。

同四日 西洋四日晴。學校不到ふ陪せり。舎密學試
驗場よて種々の製藥方及顯微鏡の新發明なる
を見ら。夫より修學所會食所生徒部屋等を看る
何も清潔ふて規則修整なり。此時曩中の生徒
九五百人程寄宿せりとそ

此生徒寄宿中の費用。修行衣食。其他一切の雜
費都て一歳凡九百フランク程ふて足まりと
蓋富有の者合カして。別ふ助成の設けられハな

黎昂

りといふ

同五日 西洋四日晴。明朝本地を發し。巴里小赴く小

より行李を整頓せ。此夜鎮台。陸軍總督。出士。セ子

ラール。市尹。其他附屬士官十二人を招集して饗

宴あり。夜十一時退散せり

同六日 西洋四日晴。午前十時半。氣車ふて夕七時

黎昂ふ拉着て。歐洲館といふ客舎小投宿せ。此氣

車ハ
毎日午前十時。此地佛國の一大都會ふして。已

發物の期限なり。里小垂く市街の布置家居も頗る宏壯花麗なり

廣大なる繅絲場。紡織場あり。凡西洋婦女の服飾。

其他の絹、紗、綾、縞子、段子、綾羅、錦綉の類、皆此地より出る。職工常より七八千人。器械屋宇の設も亦壯大なりといふ。此日夜小入て着せし故小遊覽を得也。

同七日 西洋四月十一日 晴。朝七時發し。汽車小て。夕四時

佛都

佛都巴里斯へ着ぬ。此時書記官カシヨン及御國

より先着の士官其余の人、出迎ひぬ。フロリヘラルト先導して。巴里都中央のカプシンヌ街なるガラントホテル小投宿せり。

同八日 西洋四月十二日 晴。七時此都府の外國事務大臣

へ此方到着せし由を達せる書翰を認め、向來留中の規則等を定めらる。

同九日 西洋四月十三日 晴。午時在留中衣服等の注文して。夫の職工も託せ。

同十日 西洋四月十五日 晴。魯西亜へ行し人、事充て。本邦へりへると告別し。各写真寄書など属せ。午後借宅を檢点せんとして。フロリヘラルトカシヨン等を連れて、市中を巡覽し。此處小名ある花園鳥獸の異類を萃、園を見らる。

同十二日 西洋四月十六日 曇。曉六時より又借家を見ん

とて市中へ出ぬ。此日朝七時。本邦の生徒。倫敦府
より来り旅館へ候也。

同十三日 西洋四月十七日 晴。午後一時博覽會の場所を
見り。

同十四日 西洋四月十八日 晴。夕四時比より海魚を聚め
養ふ所を一覽也。

此畜場ハ海魚杯の游泳をるを横より視。縦よ
りも視。小便をる為。玻璃器を以て製せし大
なる函。小潮水を湛え。部類を分ち。海底の沙石
藻草及貝介類の品彙を集め。海底の真状を摸

養魚所

那破烈
翁之墳

魚鱗其中小游泳をるを。自在小熟視をる甚
奇なり。

同十五日 西洋四月十九日 晴。午後二時。ロリへラル
トレセツフなど来り。博覽會委任の議事役ブレ

ーシーホルトと同道ふて。本邦産物等差出を。手
續亦談合あり。

同十六日 西洋四月二十日 晴。午後三時。佛帝第一世那破
烈翁の墳墓を尋ぬ。

此墓ハセイヌ川向博覽會場の最寄ふて。テザ
ンバリトドと云所也。結構壯麗規模廣大ふて

他邦より来りたるもの彼此を擇えらむを繼観せしむ、墳墓の傍に数棟の家屋あり其家屋に寄寓せしむるハ、都て戦争の節、重傷を受け廢人となりし類なり。蓋官より右棟の地を撰えらみて國こみ力ちからを廢疾の者等を安治せしむるの法と見ゆ。墳墓の前殿及四方の戸を小立て。門番などする者ハ多くハ右戦争の節手を傷めし人々也。又器械きなりと装填ま羅列らせる處を守り多く是を傷めし人なり

同十七日 西洋四月十一日 雨。朝九時。博覽會の事より

て會議せる公事あり

同十八日 西洋四月十二日 霽。午後二時ボワテフロン

て競馬を観るに陪屯カシヨンも從へり

此競馬場ハ圓形にして周圍二里余なり。此日ハ特小盛舉なれり。騎人も諸國有名の者集り佛帝より諸國の帝王も看官となり。都下の士庶相競みて奮出せり

同十九日 西洋四月十三日 晴。無事

同二十日 西洋四月十四日 雨。朝八時を借家を見立

同廿一日 西洋四月十五日 曇。夜九時より故の外國事務

夜茶會

大臣ロアンデロイス夜茶の招待に陪を。各國の
 ミニストル其他親屬男女會集し。種々の饗應あ
 り
 此ロアンデロイスといへるハ。墨是哥マキシ
 ミリヤンの事件ふつきて退職し。此時議院の
 官小て草木會社の頭取を勤めたり。此夜茶の
 筵ハ尤社會の一なり。親屬知音男女とも日を
 ト。夜餐後小集會し。茶酒を設け。相互小飲笑
 談話して一宵を徹せたり。此會ハ其身分小ら
 り。交際の事務なとも表向の掛合小て。爭論ナ

至るべきも。歡笑中彼我氷解せる事ありと
 云。又一局一部小冠する職務小在るものハ。時
 時此會を催し。其局官を集め其才能を親試し。
 其懇親を篤くし。大小公私小資けりといふ。
 佛國小てハワソレと唱ふ
 同廿二日。西洋四月廿六日曇朝五時礼式掛ラチユス外
 士官一人礼部大臣らりの書翰を持參し來る。四
 月廿八日。我三月廿四日即ち日曜日なれハ午後第二時
 小チユイロリ宮小おゐて國帝謁見の事を申
 來る。午後二時プレイ弁トナ等來る

佛帝
謁見

同廿三日 西洋四月十七日晴。朝博覽會掛。フレイ。我士官
の内小て。唐銅鑿定のものを定する事を言遣ハ

同廿四日 西洋四月十八日雨。午後二時佛帝謁見の式あり

午後一時何きも礼服。佛國小在る。御國の留士
ゼ子ラールフロリヘラルトも黒羅紗小金飾
の服ふて礼冠を着け。佩劔ふて来る。同半時礼
典掛二人ラミエスシヒエイ礼典の馬車を備
へ何きも紫羅紗小金飾の礼冠佩劔ふて来る。

カンヨンも通弁のさめ来る。我公使小ハ衣
冠。全権并傳役ハ狩衣。歩兵頭并第一等書記ハ
布衣。第一等翻訳方。砲兵指揮。第二等書記等ハ
素袍なり。郷導者小面會。旅舎庭上より礼車
子乗入り。第一車ハ前乗。四馬。和者二人。騎士二
人。宛車の前後子立つ。全権。傳役。歩兵頭。礼典掛
り三人。第二車ハ中車。六馬。和者四人。騎士二人
宛車の前後小立つ。公使并礼典掛一人并カシ
ヨン。第三車ハ後乗。二馬。御者二人。宛車の前後
小立つ。第一等書記。歩兵指揮并コシニユルセ

子ラールフロリヘラルト。ジムレー。第四車ハ
二の後乗前同断。第一等翻譯方。第二等書記并
シールト。並車三の後乗ハ。公使の侍者三人
乗まり。城中正門小到是は。騎兵二人兩側小立。
銃兵門内兩側小並。殿小軍樂部立並。當方
通行の時樂起る。玄關小入り下乗。階上ハ
戎器を持。百人の親兵立並。以嚴整なり。礼典
掛惣頭取礼服。よて階下よて下り迎へ先導セ
り。一と間毎鎖。門官二人宛立侍。行當れ
ハ開き。入きて直鎖。第五の戸扉小入。是ハ

即謁見の席よて三段たり。檀左佛帝。右帝妃。
左方外國事務執政大臣。其他貴官列。右方高
貴の女官列。一より。我公使ハ。其座前小就。式
礼ありて。其掛王名簿を披露。相見演説あり。
譯官。公使の側よ進。佛語小直解。て通。佛
帝より答詞あり。兩國親睦の交際あり。今
相面謁を得。満悦のふりを述べ。附役カシ
ヨシ公使の右小在りて。我邦語を譯。て通。此
夫より第一等書記所奉の公書を服紗より脱
。全權へ達。全權進。て是を公使よ捧。公

使取て帝座小坐、む。時小帝座を立ち公書を
 請取。一礼ありて。事務執政小渡されたり。畢り
 て公使帝妃小黙礼あり。帝妃も答礼せり。全権
 ハ公使の側子進一礼ありて。一同退出。次
 の間小いさり。全権より贈品目録を礼典掛惣
 頭取へ渡せり。夫より玄闕まで礼式掛頭取送
 り出たり

礼典畢至て歸館せり。夜祝賀の共宴を催せり。此
 日公使の馬車行装を見んとて。都下の老幼、勿
 論近郊より来りて。群集一道を填てて

風船

同廿五日	西洋四月廿九日	曇	午後市中を遊歩せ
同廿六日	西洋四月三十日	晴	朝八時佛帝より贈品来る
同廿七日	西洋五月一日	晴	無事
同廿八日	西洋五月二日	晴	朝馬塞里鎮台より人々の写

真来る。午前十一時風船を觀る

風船ハ輕氣毬（フキキウ）と云。佛國（フランス）にてハ近頃一層の發
 明のより。其仕方ゴムふて巨大なる圓形の囊
 を作り其中にカスを充分に満らしぬ。其カス
 の輕氣を由て騰揚せしむるなり。夫より其
 巨囊の周圍に長繩を廻らし其繩を纜聚せし

處子一の小屋を繫付其中小人を乗らしむ大
槩風様小徒て是を試む。但別小舵楫の設ち
きハなり其大なるハ二十人乗位もてあり。尤
ガスの輕氣ある少ハ小騰上ハ意の如くなき
ども甚之度を起さハ害あり。故小其分量極少
て肝要なりといへり。又下らむとせし時ハ前
の囊裏に充てしガスの氣を器械ふて漸く下
漏減して。碍りなく地小抵る様とせ。是尋常空
中を飛航する風船なり。又別一處小騰上
て一處小低下せる仕方あり。是ハ唯氣毬の下

は太き長繩を繫き。こを騰上せしめて。随意
の處まで繩を留め又其繩を引て低下せる也。
但此類ハ人の遊觀場と設け置く。曲馬其他数
々の手伎なき。雜觀せしめ。乗遊を望む者あ
れハ價を取りて直に乘らしむ。尤氣毬上下の
時ハ必音樂を奏し。導引の乗人ハ稍騰上せし
處ふて紅白の旗を麾て看官と示はを常と以
是ハ巴里の写真師ナタルの發明なりと云。
好事のもの價を費して遊乗也。我本邦も。往
年より。仙臺の
林子平の徒。此風船の圖を著し。猶工夫
あり。未だ如斯開達發明に至らぬ。

劇場

同廿九日 西洋五月三日 晴 夜八時より佛帝の催せる劇場を看る小陪を

此劇場を看るハ歐洲一般の礼典よりて九重礼大典等畢せハ必其帝王の招待ありて各國帝王の使臣等を饗遇慰勞する常例なり故小礼服盛儀より往くとよりて其演劇の趣向仕組分明ならざれども多クハ古代の忠節義勇國の為小死を顧みざるの類感慨ある事蹟或ハ正當適直の譬諺よりて世の口碑小係り人の可映を交ハ詞ハ接續小言語ありて大方ハ

歌謡なり其歌曲の抑揚疾舒音楽と相和一幕置位小舞蹈あり此舞蹈も二十ハの娥眉名妓五六十人裾短き彩衣補裳を着し粉妝媚を呈し活態姿を含と皆細軟輕窈を極め手舞足踏婉轉跳躍一様小規則ありて百花の風小繚乱を如し且喜怒哀樂の情を凝し一段落の首尾を整へ数段をなせり舞臺の景象瓦斯燈五色の玻璃小反射せしめて光彩を取るを自在よし又舞妓の容輝後光或ハ雨色月光陰晴明暗をなせ須臾の变化其自在なる真子迫り觀

舞踏

きるよ堪る里
四月朔日 西洋五月四日 晴曉四時郵船よ託して各書を
家郷へ寄せ。夜十時ニニストル館子至り。舞踏を
看るよ陪を

是を舞踏の席を開き、親属知音を招待せよ。よ
て。亦礼會の一なり。蓋夜茶會の盛舉なるもの
よして。施設も頗る華美なり。凡其催しある。ら
らう。一め招待書を廻し。其日に至れば。席上花
卉を飾り。燈燭を点し。庭燎の設。食料茶酒菓の
備へ等。華美を盡し。其席亦來き。賓客男女と

もよ。互に礼服を盛ん。飾り相集り。互に觀悟
し。音樂を奏し。其曲小應して。男女年頃の者。偶
を選ひ配を求め手を携へ。肩を比して。舞踏を
其客の衆寡小より。幾所となく舞ふ。其法則。乃
りて。少年より習ひ覺ると。通例なり。大方
曉頃小至りて散を。是則好を結ひ。欲を盡し。人
間交際の誼を厚ふ。をるの。あら。以。男女年頃
の者。相互小容只を認め。言語を通し。賢愚を察
し。自ら配偶を撰求せしむる端。よて。所謂仲春
男女を會せといえ。意小符合し。又礼義正し

彼の樂んで淫せざるの風を自然に存せし
 ならん。殊に博覽會の大典より國內事務局
 の催なれり。國帝后妃より貴族高官に勿論
 都下豪民集會し。各國帝王貴族。其他在留の諸
 官員盡く招待ありて。其設の花廳を盡く趣向
 の高大なる。實小目を驚せり。其以下處々ふて
 此催りし。其身柄より同一のらにといへ
 とも。其趣は一なり。英國太子。其公使館に到着
 せし。夜の舞蹈など。佛帝后妃とも自ら共
 じ。舞蹈せりといふ。下民はいりても其分よ

凱弓

應し。或は茶肆小持出興行をるもあり。是前
 條より自ら男女配偶。其倫を得る所以なり。
 此會を佛國よてハバルと云。恰も本邦の北峯
 峯。大原。岐。岨。藪原。等盆踊の類に似て大に異
 ものなり
 同二日 西洋五日 晴 午前本地有名のアルクドリ
 ヨンフといふ巨閣小登る。アルクドリと云意
 義。即ち凱旋の偉勲を
 表す也といふ
 此閣は。千七百年の末初代那破烈翁。伊諸國
 の戦争小殊功を奏し。凱旋の後偉勲を後世小

傳ん為め、大小土木を興して建築せしもの也
 といふ。閣の全體横長き方面にて都て容質な
 っ石にて築立たり。高さ九四メートル我二
 間 正面廣さ九二十メートル。側面の幅之二半
 程にして閣の中心凡十五メートル程の處より
 圓形に切り抜き、閣下前後左右通行を自在な
 らしむ。而して其築立し石面四方とも都て神
 像又は古代有功の人物。那破烈翁勝戦の圖な
 とを鑄附け。裏面は其建築の縁記様もの
 を記せり。閣の下は一面は漆喰ふて。九徑より

八十メートルの圓形に敷並へ。入口は鉄垣を
 圓圍して。太き鉄鎖を挂り。閣下左方の裏面
 小小扉あり戸内一の暗室にて其中程小石階
 あり。螺旋して閣上へ登る。但日を限りて人の
 登るを許さ。門もんありて一フランクを収む。石
 階の數二百八十五段より閣上へ登る。閣は
 重層小建築。下の一層は歩行自在のを。全石
 面の方庭小ひとく。眺望四顧随意なり。其廻
 り縁も巨大なる石にて。胸下までもありべく。
 爰して下階を造り正面は王宮門前より直向し。

九十八丁程直きを線のとく。途上三又小一て
 中ハ廣く馬車前車等の通路。兩側ハ瓦斯一脊
 小立並へ。又樹木蔭翳せり。瓦斯灯の下より兩
 接。人行の路の際。處々人行の往來と又馬車路
 と。人行の時ハエム管もて所へ水を灑き。雨日
 揚塵の時ハ路際より小渠ありて。處々大渠へ泥濘
 馬車路際ハ巴里都下杜麗背面カラントアルメ
 を写す。皆ハ里都下杜麗背面カラントアルメ
 の市街ハ皆ハ里都下杜麗背面カラントアルメ
 一の通街も直線のとくをえ。九二十丁程。其
 間セ。又河の鉄橋を超へ。巨大の銅像ハ初代
 那破烈翁あり。又正面小宏壯なる廓ハノオト
 レガハあり。是ハキリストの本寺の如き也。又

一
 宮
 一
 宮

左小高く聳るハパンテオンあり。巨刺の一あり
 九六十五メ。又右邊ハ舟楫の行通ふハセ又
 トルありと云。又右邊ハ舟楫の行通ふハセ又
 河あり。岸ハ二三の巨屋ハ。公議院。スコレイフ
 鑄錢局外務局也。又其右ハ長圓なるハ。博覽場
 なり。なを右郊外小高きハ。モンバンリヤンと
 いふ。全府警衛の城堡あり。其側樹木森鬱する
 ハ。ホワテブロンなり。其他郊外まで。布基羅網。
 手を取る。如。但其高聳なる目眩。取栗を。覺
 小觀了て下見ぬ
 同三日 西洋五日晴。夜九時よりチュイロリ一宮殿に

九
 月
 六
 日
 夜
 九
 時
 一
 宮
 殿

て舞踏を看る小陪に。此舉ハ席上ハ瀧など設け
庭園張燈の飾り等。國內事務局の催一ハ比一ハ
盛會あり

千イロリ一宮ハ。國帝の居城よて。前ハ市街ハ
接一左傍ハセ一又川ハ倚り。周圍石築の長家
造り。入口の門くよハ砲卒立衛を。城中石よて
敷つめ。往來自由を許し。右の方鉄垣の仕切あ
りて中程ハ石門あり。門上石よて彫鏤セ一獅
子の飾あり。門の正面ハプラスドラコンコル
ドといふ廣き一欄のとき地所。都て漆喰敷

て數百の瓦斯燈あり。又噴水器あり。黯夜とて
も燈光掩映一。人の眉毛を弁し。其壯麗實ハ杯
手一て嘆息する堪さ。門ハ左右騎兵立衛を。
門ハ入て鋪石の廣場玄關様の所ありて。内ハ
入れハ左右ハ階子あり。正面の屋根ハ國旗を
立つ。此所廣さ十間許。興行六十間許なる一。
是則帝宮あり皆二階又ハ三階造り小て。折廻
り同一造り小て諸局あり。門内往來の左又廣
場あり。三方とも王宮同様の構小てミゼイと
て古器物を羅陳一置官局なり。二階ハ油画或

へ古代の珍器。各國分捕の品等貯けり。初代那
 破烈翁在世の衣服諸道具類秘藏し。佛國起し
 画圖。所持軍艦雛形あり。油画の場所あり。古代
 の名画など世に珍しきものあり。画を好むる
 男女とも詩を受模写するを得る。王宮裡。手
 廣なる庭あり。樹木生茂り噴水泉池ありて。
 周圍鉄垣にて繞りし。入口あり。砲卒守衛し。其
 中男女貴賤をいかに遊歩往來自由ならしめ。
 帝宮より一と目に見ゆる所也。平日國帝親し
 く指揮の訓練に此内にて施行せりといふ。實

戦争画圖

小王侯の遊園といふは、
 同日 西洋五月七日 晴。朝ハノラマ小到り。伊澳戦争の
 時佛國援兵を出し勝利ありし圖を看る
 シヤンセリセイ博物館の側あり。周圍圓形
 して且り九十間四方なるべく。入口にて傘杖
 を預り。水戸錢一人前一フランク宛なり。中央
 より階子小て螺旋にて登る。上れハ堂の中央
 最高き所より出る。其所ハ山の巔に擬し。其傍に
 大砲小銃破裂せし或ハ弾丸の割るる杯あり
 て其實況をある。稍遠く行けハ。四方山間。岨曲

の模様。遠近道路縦横の位置。樹木の疎密。烟雲
の出没。盡く備り。澳の軍勢と佛の兵卒と乱戦
し及ひ。双方の軍威方々熾なる体を書き。殊小
人物大なる所。真に迫れり。就中佛帝左右并
小騎兵大砲を率ひ。澳軍は馳向ふ處。彼方より
發せし弾丸此方待医の馬に胸に中り躍跳を
する体。佛帝回顧せる様。其迹より来る騎兵も。彈
丸に中り落馬せるものあり。又此方より發せる。
大砲彼方火藥車に中り。人馬共々裂け。車輪空
中より飛揚し。其火色物凄まじく見へ。双方の

の手負死人も夥し。或は騎歩兵大砲の山間を
馳驅し。又ハ村落の際より互に突出して。接合
小銃大砲の發せる。歩卒入乱劔にて撃合。傷者
を持運ひ。疲卒憩息せる。或ハ一處の味方苦戦
なるを見て。他方より馳て之を救ふ。或ハ大将
と見へて勇まじき装ふて兵卒を指揮せしが。
忽ち撒兵に狙撃せられて落馬せるなど。諸の
躰盡く極る。戦場の形状。目の如く視る如く
なり。尤佛國の方勝利不見えさる。但將官等ハ
其時の写真より描きしなりと云。先導者

一と切くは講説何れとも分り難し。全聳の画
 圖油繪小て圓形よりて句倍をより。遠近
 距離などを見せしめしなるべし。其模写精巧
 なれハ人をしりて實境よあふ想を起さしめ。頻
 うに。扼腕唾手などあるものあるもいとあう
 一。抑油繪ハ歐洲小て古来より之を珍貴とし
 て。名人の筆よ至りてハ一面の額其價數千金
 乃至るといふ。唯奇を好と翫を銜せしめら
 せ。今此画の其妙を極め當日の景況を今日小
 あうしむるを見せしめ。亦世用欠くへららさる

一具なるへし

同五日 西洋五月八日 晴朝本邦在留公使レオンロスの

留守を訪ふ

同六日 西洋五月九日 晴。夜九時より評議局舞踏を看る

同七日 西洋五月十日 晴。午後三時本草會社討論場へ人

を遣はさる。外國局官吏ルイトジョフロハ。

名簿をさし出せり

同八日 西洋五月十一日 晴。午前十一時英國太子館より

招待せらる。午後三時都下鳥獸草木種々畜ふ。園

園を觀る

同九日 西洋五月 雨、魯西亞公使名簿をもて尋問

夜、パラシエスマチルド帝族招待あり

同十日 西洋五月 雨、午後一時、寺漏生使尋問、

夕五時より使節接待役コンシエル等同行して

テヤ劇、トルマノツトルイへゆく、陪臣

此劇場多く佛都前頭の景状も同一因て畧せ

同十一日 西洋五月 雨、午後瑞西、ストル尋問

先ドワンテロイス方ふて夜茶の饗あり此饗も前同所

同十二日 西洋五月 霽、朝八時佛帝より使者立ち

来レセツプチユイス宮殿におわて、開筵ふより

シヤンクラ
館舎移徙

ボアテフロ
ンギニ公園

て招待あり。午時シヤルクランの館舎へ引移り

ぬ

此シヤルクランの市外幽雅の地にて。ボアテ

フロンギニへ續く地なり。ボアテフロンギニ

ハ都下遊園の最大なる公園にて。アルクデト

リヨンプより一條の大路あり。周囲二三里も

ありべく。樹木陰森として路幾筋もあり。中

央廣き路ハ馬車を通す。樹林中左右の徑ハ遊

歩又ハ騎馬の行路とす。洒掃等至りて届き。池

辺ハ異禽珍魚と養ひ小艇ありて。游棹檀小

セーむ。其池中を周回して。舟錢九二三フラン
クナリ。中島小佳木奇花と植え。茶肆も奇麗
は建。賑。風流の士なと夕餐を命ぞ。此池へ瀑
瀑。布泉を懸。夏月占涼の處とき。此池ボワドワ
ハニセー又ハルクモンフクビツトシヨウモ
ンなど。處々小遊憩の園作りて。各其水土小よ
りて意匠を異小。風景も各様よて目を娛
ま。め心を怡いむ。都て士民遊息の公園小
して。其趣き同一とれは是を畧に
此公園を行過て。又イーエトといふ地は出る所は。

ジャルグントアックリマタシヨシといふ植物苑
あり。各國の佳木奇草を集めて培養を熱地のも
の。苑中玻璃室を作り蒸氣よて暖小して培養
を。處々水泉作りて。浮萍の類も生。紅魚。白魚。瑤
瑁魚などを飼ふ。又禽獸を畜ひ置所あり。牛馬。豚
羊鹿。猿。兎。犬など種々あり。カンクローウとて亞刺
比亜産の獸あり。其貌鼠の大なるとくよして四
支前へ不用小。後趾よて走る。極て速なり。此の
腹皮二重よして。子つるときは。常に外皮よ入ま
て養ふ。時々稚子首を腹皮より出して食を覓む

甚之奇也。其他獺。狐狸。貉の類も最多し。禽ハ孔雀。鶴。錦鶏。雉。鳩。鷄の異品なる其外小鳥も數種あり。其風土よ。従ふて氣候を疑し。性を換え。質を度せしむる等の術を修せる為。設けし所より。經費ハ其修行の者。結社中別よ供給の法を造り。費を厭ふに。如斯細事も能其試験を遂ぐといふ。又此地の外小シマルダンデプラントとて。セー又河の南縁よ大なる。禽獸園あり。大概前の植物園小同し。只獅子。帝。豹。象。豺。狼。熊。羆。獨等の類を畜ふ。猛類ハ皆鉄圍カマク小て畜ふ。ヒポボタムとて。南亞墨利加

子産たる比類なき。醜態なる海獸あり。其貌牛の大なるふて。趾太く短し。全体毛なく。鬃ヒゲの肌よひとしくして厚く。甚之猛健なり。口方大カマク小して恰も祇園會小用ゆる獅子の頭小鬃ヒゲ鬃ヒゲなり。常は水中サメ小放置看官カマクパンを救与をれを水より出て。これを食ふ。又蝮ヘビ鱗の類多し。同國の産なり。暖を好める由よて箱小入き。フランケットカマクよて包ちり。其大なるハ圍り一尺許もゆるべし。時々箱の中よて首を掀舌を鳴らせり。又鯨クジラ鯨クジラの類あり。いつきも生畜せり。又巨鯨。巨蛇の枯骨を全備を。都て修

學の具よ供をと云。庭中小高き所小一樓あり。樓
 上死者の骨及小児の骸を酒よて漬せし。或ハ死
 者を其儘小乾し堅めある。こイラノ如き者數多
 く。羅列し何きも。小札もて其由縁を標紀を。蓋異
 邦の人骨格の異ある。或異形よ体を受けし。又を
 病小よりて変せし病根等を考證し備るなるべ
 し。此又修學の者結社して。如斯其細大を遺さ
 ば。攻索よ心を盡せる感をへし
 同十三日 西洋五月 雨無事
 同十四日 西洋五月 曇午後英國公使館の舞踏を

看る 此舞踏も前
 同十五日 西洋五月 晴佛后妃の催舞躍を招待あ
 りし。午時大砲器械貯所并巴里有名の古寺。其外
 交易公事吟味所。罪人裁断所等を見るに陪せり
 同十六日 西洋五月 晴無事
 同十七日 西洋五月 晴休總
 同十八日 西洋五月 曇アバニューデランペロウ
 ールの傍に在る花園を看る
 同十九日 西洋五月 曇暮七時外國事務執政方小
 て。夜茶の饗あり。此夜茶も
 前同断

埋地道

同廿四日	同廿三日	同廿二日	同廿一日	同廿日
西洋五月十七日	西洋五月十六日	西洋五月十五日	西洋五月十四日	西洋五月十三日
晴	晴	晴	晴	晴
午後一時より巴里市街埋	おあーく	おあーく	無事	モリス方へ往く

地道を視る小陪を

此埋地道の興作は近年の事にて、いま々町末
 へ造築中なり。市街往来の下は別よ一の洞道
 を穿通し。洞内立行して碍りなき程にて。下小
 一條の川を疏し。両側歩行をべく。市中人家の

濁水及汚濁。水戸尻までも。皆此川に注ぐ。各處
 注ぐ穴の如くは。滝の如くは。上より大さ
 拱把の鉄管を通りて。存用水を水源より遠く
 引き。細き鉄管ハ。尾斯を釜元より取りて。各家
 小分つ。所々明り取りの穴の如くも。委しくハ
 燈を点せされい見えうさ。余輩城の裏手ハ
 あら市街より。鉄蓋を披き石段を下りて入る。
 川幅は架せし車通り。其まよ乗りて屈曲十五
 六丁小して川幅廣くなる。是より舟小乗り九
 半里許よして。城西一介の市街よ上る。洞中陰



陰とて具氣鼻を穿つ漸く日を望むを得て
大小快然とす。此埋地道人家の汗物を流せる
より常は是より為小掛け置く人夫ゆりて器械
よて掃除して壅塞なりらむ

同廿五日 西洋五月十日晴。阿蘭公使并海軍コロニイ

砲兵頭并ホーシヤレ等尋問を佛國アミラール

ヲエー支那日本海の惣督を命せられ。近日本邦

へ出帆せりよより尋問を

同廿六日 西洋五月十日晴。アミラール附属の官人等来る

航西日記卷之二

明治四辛未冬發兌

耐寒同社藏

須原屋茂兵衛

賣弘書肆 山城屋佐兵衛

和泉屋市兵衛

